

第2期アクションプランの進捗状況について

背景

高知龍馬空港の航空ネットワークの持続的な発展を目的として、H30年度に設立された「高知龍馬空港・航空ネットワーク成長戦略検討会議」において、関係機関が共通の目標を掲げ、その目標を達成するために取り組むアクションプラン（AP）を策定

第2期
AP

目標値：高知龍馬空港を利用する航空旅客を180万人以上とする

計画期間：R5～7年度（3年間）

※R元年度実績155.9万人の115.5%（R4当時のIATA世界航空旅客数予測に基づくパーセンテージ）

R7.4-7国内線実績は対前年同期比104.2%
※各路線の実績見込はそれぞれの対前年同期比より算出

路線名	目標達成に向けた取組方針	R5年度 (2023年度)		R6年度 (2024年度)		R7年度 (2025年度)		備考
		目標	実績	目標	実績	目標	見込	
旅客数 合計		160 万人	158.6 万人	170 万人	155.2 万人	180 万人	162 万人	
実績 (路線別内訳)	東京 (羽田・成田)		105.8 万人		106.2 万人	126.2 万人	112 万人	【羽田線】朝ドラ効果もあったが需要はコロナ禍前までは回復していない 提供座席数減で搭乗率は回復（R7.4-7:73.7%）
	大阪 (伊丹・関西)		26.7 万人		26.2 万人	27.5 万人	27 万人	【伊丹線】R7.4-7搭乗率は79.1%まで回復 【関西線】未就航
	福岡	路線別未設定	7.9 万人	路線別未設定	8.0 万人	8.3 万人	8 万人	R7.4-7搭乗率66.5%
	名古屋 (小牧・中部)		12.3 万人		11.2 万人	12.3 万人	12 万人	
	神戸		2.8 万人		—	4.1 万人	—	R6.3月末から定期運航休止
	国際線		3.1 万人		3.6 万人	1.6 万人	3.4 万人	R7年度 目標：50往復100便 見込：104往復208便

- ・台湾との国際定期チャーター便の就航（R5.5～、タイガーエア台湾）により、国際線の目標は達成の見通し。
- ・伊丹線が比較的好調な一方で、神戸線の休止や羽田線の需要が回復していないことにより、国内線は利用者数が伸び悩み。
- ・国内・国際を合わせた目標180万人の達成は難しい状況。

第2期アクションプランの進捗状況について

取組実績

重点課題		取組内容 ※【 】内は実施主体
A 需要の喚起	関係機関が連携した需要喚起	<ul style="list-style-type: none"> 既存路線の利用促進 新規路線の認知度向上 LCC路線の拡大
	国際チャーター便の誘致	<ul style="list-style-type: none"> 海外の航空会社・旅行会社へのセールス継続
		<ul style="list-style-type: none"> 台湾の航空会社、旅行会社へのセールス活動（知事・副知事トップセールス3回）【県】 ⇒台湾桃園国際空港との定期チャーター便就航・継続（R5.5～、週2往復）
		<ul style="list-style-type: none"> ジェットスター・ジャパン成田線の複便化に向けた路線プロモーションの実施【県・航空会社】
B 受入体制の改善	国際線受入体制の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 空港関係者で構成する国際線受入連絡会を開催（計16回）【県ほか】 誘致活動を行う県とグランドハンドリング事業者、航空会社、CIQ機関などが受入れ体制について密に連絡調整を実施 <これまでの主な協議事項> <ul style="list-style-type: none"> 受入施設の整備や必要な資機材の調達に係る意見集約 国際線旅客の受入シミュレーションの実施 旅客の利便性・快適性の向上施策の検討 など
	グランドハンドリングの体制強化	<ul style="list-style-type: none"> 国際チャーター便受入体制強化事業費補助金創設【県】 国際線の受入に必要なグランドハンドリング事業者及び保安警備事業者のスタッフの確保に必要な経費を支援 空港における人材確保事業の実施【航空利用促進協議会】 県内の大学、専門学校及び高等学校の生徒に向け空港の仕事の魅力を発信し合同企業説明会を開催（計2回71名参加）
C 空港施設の機能強化	新ターミナルビルの整備促進	<ul style="list-style-type: none"> 国際線専用仮設施設を整備【県・空港ビル】 国際定期チャーター便の就航に際し、航空保安や国内線旅客への影響を考慮し、現在の旅客ターミナルビルとは別に国際線受入専用の仮設施設を整備 新ターミナルビルの基本・実施設計の実施【県】 令和7年度に設計完了、令和8年秋一部供用開始、令和9年春の全面供用開始を目指して工事を進める

